

令和5年度千葉県立検見川高等学校 学校目標及び学校評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける 該当質問項目 <small>(職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)</small>		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ								
				肯定的 回答	否定的 回答	肯定的 回答	否定的 回答												
学校経営	1 家庭・地域と連携し、開かれた信頼される学校づくりを推進する。  2 全ての職員が仕事に誇りと責任を持ち、不祥事を起こさないという意識を高めるとともに、組織的に業務に当たり、既存の考え方や在り方を見直し、働き方改革を進める	① ホームページの内容をその都度更新し最新の情報を発信する。	① ホームページを年間100回以上更新する。	11	生 保 検見川高校は、家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている	72.9%	27.1%	ホームページについては、広報すべきことを中心に最新の情報を110回以上更新しているが、更新できていないページがあり、課題が残る。	中学生や地域の方に理解が進むよう引き続き更新を進める。ページによって更新されない部分もあるので、改善する。	改善方策のとおりで良い。	今年度同様積極的に学校の様子を発信するとともに、更新されていないページの改善を図り、中学生や地域の方の理解が深まる内容にする。								
		② 地域や関係機関との交流を行うとともに、保護者等に授業を公開する。	② 地域や関係機関との交流回数と授業公開の回数の合計(年間5回以上)			/						家庭基礎の授業における地域との連携、高等特別支援学校との交流、地域の清掃活動等を実施するとともに、授業の公開を3回実施した。	地域との連携や生徒の交流等も実現できた。今後は生徒の学習に係る内容も含めて検討する。また、授業公開については、次年度も実施する。	現在行っている交流はもちろん、コロナ禍で行えなかった交流も進められるとよい。	地域との連携や生徒の交流等を進めつつ、生徒の学習に係る内容での連携も図ることを検討する。授業公開については、次年度も実施する。				
		③ 校舎内外の安全点検及び巡回を行うとともに、書類等の点検を複数職員で確実にを行う。	③ 施設・設備の点検表及び巡回状況の確認、書類等の点検体制の確認			/										学期1回の点検を実施し、課題のあるところについては、修繕等を行った。また、書類等の点検については時間に余裕をもたせて実施した。	施設については、引き続き点検を重ね、安全な環境を確保する。また、書類等の点検については、点検の在り方を見直しつつ誤りのないようにする。	改善方策のとおりで良い。	施設の点検を行うことはもちろんのこと、安全な教育環境を確保できるよう配慮する。書類等の点検についても見直し誤りのないようにする。
		④ ICTを活用した業務の改善を一層進めるとともに、個々の職員の定時退勤曜日を設定し、勤務時間に対する意識を高める。	④ ICTの活用状況及び職員の在校時間等の状況の確認			/													
ICTを活用するとともに、授業改善を図り、質の高い学習指導を実践し、生徒の学力を向上させる	① 生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善を進める。	① 生徒の授業評価の肯定的評価の割合(80%以上)	18	生 保 私は授業を理解している。	76.0%	24.0%	学習指導にICTを活用している場面はあるが、タブレットの使用状況は常態的とは言えない。授業手法等については改善が見られ、生徒の授業理解度については昨年度より2.3ポイント上昇している。	生徒の学習の理解度は向上しているため、授業改善を一層進める。1人1台端末については、学習効果も含めて検証しつつ、よりよい活用に向けて検討する。	タブレットを買わせているので、もっと使用率を上げてほしい。	学習指導において効果的にタブレットの活用ができるよう研修を進め、生徒の理解が深まる授業を実践する。									
	② ICTを活用した授業に係る研修を行うとともに相互授業参観の機会を設ける。	② ICT活用に係る研修及び相互授業参観の実施状況	/		ICTに係る研修については、学習支援ソフトの活用に係る研修と、1人1台端末に係る研修を少人数制で実施した(全10回)。相互授業参観については機会を設けたが十分実施できず課題が残る。	ICTの活用に係る研修は、全体の研修よりも必要性のある個々の支援が必要であることから、各教科ごとに進める。また、相互授業参観の実施方法については改めて検討する。					改善方策のとおりで良い。	ICTの活用に係る研修は、各教科ごとにその特性に合わせて進める。また、相互授業参観の機会を設け授業改善を進める。							
	③ 到達度テスト等を活用し、生徒の学力を確認するとともに、情報を共有して課題を明確化し、生徒の学力向上を図る。	③ 客観的学力を職員が把握する機会回数及び生徒の学習に取り組む姿勢の変容	15	生 保 検見川高校の先生方は、授業を工夫し、わかりやすい授業をしてくれる。									78.9%	21.1%	生徒の学力を把握する機会を到達度テスト等により、年間4回設けている。結果等の情報を共有しつつ各教科で学習指導の改善を行った。生徒の評価は、昨年度より6.3ポイント上昇した。	生徒の学習課題を捉えた上での学習指導に効果があることから、今後も客観的な評価資料に基づいて学習指導の見直しを行う。	改善方策のとおりで良い。	到達度テストや実力テスト、GTEC等の結果を分析し、生徒の学習課題を的確に捉えて授業改善を行い、生徒の学力向上を図る。	
諸活動を通して自主自律の精神を養うとともに、教育相談体制を充実させる。	① 日常的に基本的な生活習慣に係る指導を行うとともに、安全指導や情報モラルに係る指導等を行う。	① 生徒の学校評価アンケートの肯定的回答(90%以上)及び安全指導・情報モラルの指導の実施状況	23	生 保 校則や社会のマナーを守り、責任ある行動をとっている。			93.8%	6.3%	登下校指導や服装頭髪指導等を定期的に行うとともに、交通安全指導やSOS出し方教育、情報モラル教育を行った。生徒及び保護者の肯定的回答も高く概ね達成できたと判断する。	日常的な細やかな指導を重ねつつ、要所所で生徒の気づきを促す指導を行う。生徒の安全に関わる指導については、外部指導者の講演等により充実させる。			改善方策のとおりで良い。	日常的に細やかな指導を継続的に行うとともに、生徒の気づきを促す指導を行う。生徒の安全に関わる指導も引き続き外部指導者を活用するなど、一層充実させる。					
	② 生徒による生徒指導規程の見直しに係る機会を設ける等、諸活動において主体的に行動する場面をできるだけ多く設定する。	② 生徒の学校評価アンケートの肯定的回答(70%以上)			14	生 保 検見川高校は、生徒の自主性やリーダーシップの育成に取り組んでいる。	75.3%	24.7%			生徒規程の見直しについては生徒から主体的な考えが表明された。また、各行事の運営等において、生徒の主体的な活動の場を設けた。生徒の評価は昨年度よりも9ポイント上昇している。	生徒による生徒規程の見直しを行う機会を今後も設ける。生徒が主体的に考え行動できる場面をより多く設定する。							生徒が規定を見直すことに取り組んでいるのがよい。
	③ 年度当初に面談週間を設定するとともに、学期ごとにアンケートを実施し、いじめや諸課題の早期発見、早期対応に組織的に取り組む。	③ 生徒の学校評価アンケートの肯定的回答(80%以上)及び当該生徒に対する支援や対応の状況	16	生 保 先生方は生徒の悩みや相談に、親身になって応じてくれる。	84.2%	15.8%	面談週間や定期的に行っているアンケートを基に生徒の課題を早期に発見し、スクールカウンセラーと連携をとりながら、課題解決に向けて取り組んだ。スクールカウンセラーの予約が埋まってしまいう状態である。	生徒の心に関わる課題が増えていることから、早期発見、早期対応できるように引き続き面談やアンケートを実施するとともに、相談窓口の周知を行い、課題が発見された場合は組織的に対応する。							改善方策のとおりで良い。	生徒が相談しやすいように、担任との面談機会を増やし、相談窓口を複数用意する。また、アンケート等により生徒の課題が発見されたら、スクールカウンセラー等と連携し組織的に対応する。			

キャリア教育	生徒が主体的に進路を選択できるようキャリア教育を進めるとともに、個々の進路課題に対する支援を充実させる。	①進路ガイダンスや進路講演会等を行うとともに、保護者向けの進路説明会も行う。	①進路ガイダンスや保護者向け進路説明会の実施状況				3年生9回、2年生6回、1年生5回の進路ガイダンス及び進路説明会を実施した。保護者向け説明会も学年別を実施した。特に2年保護者対象の説明会は2回実施している。	生徒の進路に係る意識は高まっており、進学実績も上昇していることから、今後も進路ガイダンスや説明会を充実させる。	改善方策のとおりで良い。	生徒が主体的に進路について考え、保護者と情報を共有しながら進路選択ができるよう、内容の見直しを行いつつ、進路に係るガイダンスや説明会を実施する。									
		②進路だよりで最新の情報を生徒及び保護者に提供する。	②進路だよりの発行回数(年10回以上)及び生徒・保護者の学校評価アンケートの肯定的回答(80%以上)								25	生 保	私は、進路について保護者(子供)と会話している。	82.4% 17.6%	85.3% 14.7%	今年度についても進路だより「羅針盤」を2学期末までに10回以上発行し、進路に係る最新情報やデータに基づいた学習の取り組み方などを掲載した。進路に関する話題が生徒と保護者で進められていると判断している。	進路だよりの発行により、進路情報が確実に伝えられることから、今後も継続するとともに、進路に対する意識を高める工夫を進める。	「羅針盤」は情報がよくまとまっているとともに、生徒・保護者とも知りたい情報がタイムリーに記載されており、進路を考える上で非常に有効である。	生徒の進路に対する意識を高めるとともに、生徒が進路を踏まえて学校生活をよりよく過ごせるよう、進路だよりを中心に進路情報を的確に発信する。
		③進学ゼミ、進路別説明会、個別相談等を通して、個々の進路実現に向けた支援を行う。	③生徒・保護者の学校評価アンケートの肯定的回答(85%以上)及び実施状況								4	生 保	検見川高校は、各学年に必要な情報を提供したり、ゼミを実施したりするなど、進路指導が充実している。	87.9% 12.1%	82.1% 17.9%	通年及び夏季休業中に進学ゼミを16講座開講した。また、1・2年生対象に大学教授等を招いたりICTを活用したりして、学部や学科、専門分野別に模擬授業(実習等を含む)を行う行事を実施した。保護者の肯定的回答が85%に届かなかった。	進学ゼミ等については、今年度以上に開講数を増やしたい。ICTを用いた大学講義の視聴や個別の進路相談、面接練習等についても継続する。	進路のサポートがきめ細かく、個別の対応も丁寧である。働き方改革が気になるものの、この取組は続けてほしい。	進学ゼミは、内容を充実させ生徒のニーズに応える。また、進路別説明会、個別の進路相談、面接指導等についても継続して実施する。
	特色ある活動	千葉県学校DXパートナー事業の拠点校としてICTの活用等を一層充実させる。	①学校DXパートナーを活用した研修等を行い、ICT活用を一層推進する。	①研修状況や新たなことへの取組状況				学校DXパートナーを活用した目的別の研修を10回実施するとともに、個々の支援をしてもらい、1人1台端末の効果的な使用に結び付いた。	学校DXパートナー事業の拠点校は今年で終了のため、次年度は今年度に得られたことを生かしてICTを活用した学習指導に取り組む。	改善方策のとおりで良い。	ICT活用の好事例を職員で共有しつつ、学習指導や特別活動等において、より一層活用する。								
			②1人1台端末を活用した学習指導について研究を深め、常態的に実践できるようにする。	②1人1台端末の活用状況及び学習に取り組む生徒の状況								TeamsやForms、OneNote等を活用した学習指導を進め、生徒が主体的に取り組む姿が多く見られた。しかし、活用している授業とそうではない授業があり、常態化しているとは言えない。	より一層学習効果のある1人1台端末の活用方法について研究を重ね、各教科の特性に応じて授業で実践する。	改善方策のとおりで良い。	学習指導において、1人1台端末を活用できるよう各教科で取り組むとともに、より効果的な活用方法について研究を進める。				